

今年のブータンは今までと違った!!



JA3IVU (筆者)

WA0WOF

JR3MVF

JH3AEF

今年もまた「ブータン」へ行ってきました。
5回目ですが今までとは少し違いました。

まえがき

三好さん (JR3MVF) が YL さんと共に A5 で運用したいとのお話があり、WA0WOF Kay さんともに YL 局として運用されることで、東條さん (A52AEF) と北井 (A52IVU) は YL 局の運用のためお休いをすることになった。ライセンスは、例年と同じく、また、6m を追加して日本の免許の英文証明書と WA0WOF Kay さんの書類を用意し、現地の旅行社 Zhidey Bhutan T & T の青木さんを通して行い、YL 局は A52YL(Group) を取得することができた。個人局として三好さん (A52YLM)、Kay さん (A52YLE) も取得した。運用場所は、例年と同じく海拔 3150m のドチュラ峠にある「ドチュラ・エコ・リゾート」にした。

準備

昨年秋ころから、三好さんが YL 局の運用したいとのお話があり、WA0WOF Kay さんが共に出かけることになった。今までとは違い、集合場所、リグ、アンテナ等の準備に始まった。Kay さんには BKK 経由となるので W から BKK まで来てほしいと連絡をしました。Kay さんはカンサス、アトランタ、インチョンを経由して BKK に 2 日前に到着する予定。

BKK から PBH (パロ国際空港) までの航空券と VISA を Zhidey Bhutan T & T の青木さんのところに手配した。タイ航空の KIX から BKK までの深夜便は昨年からなくなり、JAL に KIX 00 時 45 分発の深夜便があったので出発日が 4 月 28 日の深夜で帰りが BKK 5/5 発の深夜便が取れた。ブータン行きの BKK—PBH のドルクェアに乗るためにはタイ航空か JAL でないと荷物が BKK でスルーしない。BKK での荷物の受け取りは時間と手間がかかるため避けたい。

まだ、難関な課題がドルクェアのチケットが中々とれない。やっととれたとの連絡があったがなかなか e チケットを送ってこない 4 月 27 日の出発前日に再度連絡するとやっと送ってきた。いつもながらヒヤヒヤなもの。VISA は前にとれているのでやれやれ。

Kay さんは 2 日前に BKK に入っているとの連絡があった。待ち合わせは 4/29 BKK のドルクェアのゲートにした。事前に昨年、A5 へ持って行き強風で倒れたのでエレメントの修繕と倒壊対策をし、3.5 と 7、10 の DP も大和川の河川敷でテストと調整を行った。

今回も、荷物の重さたたかいでしたが JAL は 23k x 2、ドルクェアがビジネスで 40k でなんと追加料金もなくホットした。というわけで今回もリニアアンプなしで、リグは IC7300、TS480HX、FT450D アンテナは 20m—10m が HEX-6、80m と 40m と 30m が DP、6m は 5 エレの八木となった。特にローバンドのリクエストがあっ

たためアンテナを用意。

4 月 28 日夕方、車で東條さん宅へ、そして三好さん宅へ行き、関空へ向かい予約していた駐車場へ (何日預けても 7000 円)。荷物を JAL のチェックインカウンターへ。係の方が PBH まで荷物が BKK でスルーできない。3 人も「エー」と BKK で荷物をとっていたらドルクェアに間に合わないことと今までスルーできたとやうという調べてスルーでいけることとなった。3 人もホットした。

予定の 0 時 45 分すぎに無事に KIX を離陸したが気がついたら台湾上空だった。到着、1 時間ほど前の朝の 4 時ころ朝食が・・・まだ眠い。

BKK に到着し、乗り換え口へ、無事手続きを済ませドルクェアのゲートに行き、しばらくすると Kay さんが到着し、これで 4 人揃った。



乗り場には日本人観光客が数人いた。6 時 50 分、BKK を離陸後、インドのコルカタに寄り、山と山の間を降下し、今回は雲が多く、心配したが山の尾根が窓のすぐそばに・・・パロ国際空港に無事着陸した。

ターミナルビルが新築され、広がっていた。

ブータンに到着

タラップを降りて徒歩で出口へ、きれいな独特の建物 入国審査を受け、荷物を受け取り、税関へ なぜかアンテナなどたくさん荷物を持っていたのか私たちは無事通過した。出迎え口には現地ガイドのウゲンさんがお迎えに来ていた。



車に荷物を積み込み、まず、三好さんと Kay さんが初めてだったのでティンブーの観光と昼食をしてから宿泊地のドチュラ峠向け出発、いつものドチュラ峠は舗装され、広がっていた。おかげでかなりの時間短縮となった。16 時ころには峠に到着。てっぺんには 108 の仏塔が建立されている。ここからの景色は絶景 遠く白いヒマラヤの山々が眺望できるはずであったがあいにく曇りで真っ白にも見えない。高山病に注意しながら荷物を運ぶ。今年は雨で小降りなか、まず 2 階のテラスの北側に HEX-6 を南側に建てて第一声を出すことにした。DP 類は明日に立てることにした。



アンテナを立て、リグ等を開梱してセットした。がしかし、TS480HX に使用する電源 (41A 対応) を昨年ここで故障した方を持って来てしまった。東條さんの予備の電源を使った。(200W 運用ができない) もう一つ、アンテナアナライザも忘れていた。

運用開始

4 月 29 日現地時間 18 時ころから 20m の SSB で運用を開始したが CQ を出してもなかなか呼ばれない。そこで島本さん (JA3USA) に連絡すると 5 分ほど待つてとのこと。しばらく待っていると 59 で島本さんの声が聞こえる。さすがにいいアンテナといいリグだ。ラグチューをしているとなんだか騒がしくなってきた。パイルアップが始まった。

4 月 30 日朝、朝日が差し込みヒマラヤの山々を拝んでいるとガスがかかり、また、真っ白に。朝食後、30m と 40m の DP と 6m の八木を立てた。天候が悪いので 80m と 160m のアンテナを立てることをあきらめた。コンディションが悪く 20m の SSB で始めたが昼間はなかなか QSO が進まなかったので FT8 に変えた。そうするとパイルに、2 人も FT8 は初めて、横でお手伝いをしながら QSO を始めたが QRM のためなかなかデコードできない。それに最後の 73 まで進まない。みなさんにたいへんご迷惑をかけてしまった。

SSB は 18 時すぎから 24 時ころまで 20m で三好さんと Kay さんが交互にマイクを持った。



その間、A52IVU で 6m(50.313)FT8 で CQ を連発したが QSO には至らなかった。無線三昧ではなく、三好さんと Kay さん ブータンの古都プナカへ観光に出かけた。滞在中、峠の天気はほぼ毎日雨なかなか晴れてヒマラヤが見えない。山の麓は晴れているらしい。空のコンディションも悪く、昼間は FT8 をメインとし、夕方から SSB の運用となった。

FT8はYLさんのサポートをしながらのQSO、SSBはYLさんにお任せしてした。
 Kayさんはさすがに流暢な英語で私たちが解読できない弱い信号でもコールを取っていく。
 しかし、JA局のコールは取りづらいようで三好さん変わった。



このホテル、今までは宿泊客はほとんど私たちだけだったが今年は何組かのグループが宿泊していた。その中には日本人のグループも。7日間ここで宿泊していると話をする不思議な顔をしていた。



帰国の日にKayさんからWOGJからのログをA51AAに渡す(左からJH3AEF、WAOWOF、A51AA)

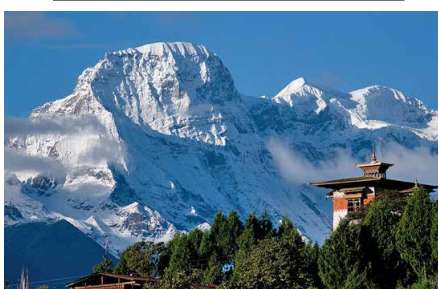
いよいよ帰国

5/4午後、小雨の中40m、30mのDPと6mの八木を撤去 5/5朝 起きると晴れて 今回、初めてヒマラヤがきれい見えた。HEX-6を朝5時からたんだ。7時、玄関前で記念写真を撮り、パロ空港へ、帰りはエコノミーであったが無事、手荷物検査を済ませ、チェックインへ、手荷物の重さが3人合わせて、少しオーバーし、超過料金を払った。

予定の時間とおりにパロ国際空港を離陸、山の谷間を縫うように上昇していき、やっと山の頂上を通過して、一路、BKKへ、トラジットエリアでKayさんを探すが見つからない。JALのカウンターでチェックイン後、23時00分の開空行きまでターミナルでまたなければならぬ。今回はA52YLの運用がメインであるためA52AEFとA52IVUのQSO数は少ない。

1 運用は40m 30m 20m 17m 15m 12m 10m 6mで、予定していた160mと80mは運用できなかった。
 2 コンディションが悪くFT8モードを主に運用した。
 3 総QSO局数は4人で2400局ほど
 4 今回初めてこのホテルにもWiFiがつかえるようになり、メールやクラスターを見ることができた。
 終わりにプータンでの貴重な運用の機会を与えていただきましたJH7EQW「湯浅 涼」先生ほかみなさん方に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

	CW	SSB	FT8
A52YL	10	873	1256
A52AEF	0	8	128
A52IVU	0	0	128
計	10	881	1512



今話題の
北朝鮮

今から30年近く前の1990年

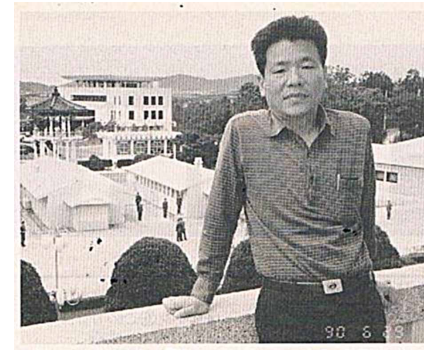
JA3UBがハムとして訪朝した時の写真をご紹介します



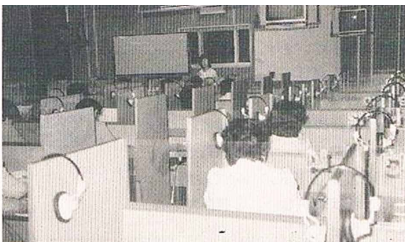
北朝鮮の平壤市少年科学宮でアマチュア無線の講義終了後の写真



白頭山を見たいと言ったら、特別機を用意してくれた!



北朝鮮側から見た板門店をバックの写真は貴重品?



少年宮の子供たちのCWトレーニング練習室



板門店へ行くために平壤から列車で向かった開城の駅で。駅の標識には北側の次の駅は表記されているが南側は空白。



HAM RADIO
June 1 - 3, 2018
 in Friedrichshafen, Germany